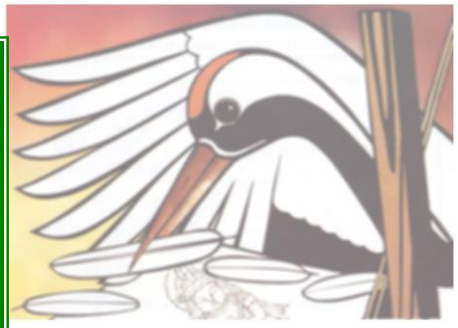

鶴の便り

鶴の便り

夕鶴の里資料館報
平成26年7月20日
第 43号
発行　夕鶴の里
TEL 47-5800

第十二回 民話の語り駅伝

去る七月六日(日)夕鶴の里友の会(渡邊記美子会長)主催の第十二回「民話の語り駅伝」が、夕鶴の里語り部ホールで開催されました。

渡邊会長の挨拶で開会し、往路第一区の宮内小学校四年生の遠藤優綺さんが「置賜のビッキ村山のビッキ」を語り、順々とタスキがリレーされていき、往路十区では、戸田節子さんの「月に行ったうさぎ」が披露されました。

続いて、復路十一区は、友の会役員による、紙芝居「屁ったれおひつ」が公演され、笑いが会場いっぱいに広がりました。タスキは十二区の中川小学校五年生の山口詩乃さんに渡り、語りが披露され、その後も次々とタスキが渡っていきました。二十区、アンカーは、民話会ゆうづるの菅野敏子さんによる「鶴の恩返し」が披露され、漆山に伝わる地名伝説民話を、情感豊かに語っていただき、会場は魅了されておりました。

当日出演された皆様、素晴らしい語りありがとうございました。

出演者、題目は次の通りです。

往路

一、遠藤優綺（宮内小四年）
『置賜のビッキ村山のビッキ』

二、鈴木 颯（漆山小六年）
『むかでの医者むかえ』

三、髙橋駿太（漆山小六年）
『十二支ばなし』

四、齋藤和子
『大銀杏と与兵ヱどの』

五、髙井和喜
『かみないはなし』

六、川崎笑琉（中川小五年）
『仙人の虫干し』

七、小川駿汰（漆山小六年）
『まんじゅうこわい』

八、竹内浩子
『若返りの水』

九、柿間秀昭
『木小屋の酒盛り』

十、戸田節子
『月に行ったうさぎ』

復路

十一、友の会役員・紙芝居
『屁ったれおひつ』

十二、山口詩乃（中川小五年）
『松尾神社の石段』

十三、鈴木 駿
『寝言兄弟』

十四、髙橋万梨恵（漆山小六年）
『白竜湖の琴の音』

十五、渡辺陵摩（中川小五年）
『和尚と小僧』

十六、大竹和子
『鶴と亀』

十七、松橋信子
『真心の一文銭』

十八、朝倉喜美子
『絵姿姉様』

十九、太田慶子
『むかしの嫁ご』

二十、菅野敏子
『鶴の恩返し』

社会人力育成講座

学生の社会人力を育成することを目的に、五月三十一日(土)に開講した、社会人力育成山形講座が、七月十二日(土)、四回目の講座をもって終了しました。

一、二回目では、民話を聴いたり、語りの練習、南陽市に伝わる民話のゆかりの地などをめぐりました。三回目は、ふるさと講座を受講(講師：大友義助氏)したり、機織りなどを体験しました。最終四回目では、そば打ちを体験し、午後からは、各自選んだ民話を発表しました。個性豊かな語りをして、講師の先生から、高評をいただいておりました。

第五回 おきたま語りフェスティバル

去る、六月二十二日(日)、第五回「おきたま語りフェスティバル」が白鷹町文化交流センターあゆーむで開催されました。

切り絵師の渡部弘之さん(南相馬市在住)がゲスト出演し、温かい、優しい語り口調で、会場は、ほのぼのとした雰囲気に包まれました。また、会員による、地名伝説などが披露され、百五十名余りの聴衆は、うなずいたり、笑ったりと、会場は大いに盛り上がりました。

民話会ゆうづる　会員紹介

今回は、民話会ゆうづるの「渡邊記美子さん」をご紹介します。

Q、民話会ゆうづるの会員になったのはいつごろですか？また、そのきっかけはなんですか？

A、渡邊

開館した当時は、漆山在住か幼児施設長のみとのことでしたが、その後、門戸が開かれ十四年に会員として加えていただきました。きっかけは、友の会会員となり、いろんな講習を受講したことかな。

Q、語り部になられてよかった事はなんですか？

A、渡邊

たくさんの方々と出会えたこと。お客さんとの会話がはずみ「良かった、また来るね」などと言われると、心ウキウキ「またござっておごやえ」とテンションが上がってしまいます。

民話会の皆さんと、ともに語りをすることでいろんなことが学べたこと。

Q、語り部をして一番嬉しかったことをあげるとしたら？

A、渡邊

その時々が一番ですが、とくにお客さんと一体感になれたときです。また、語り部の皆さんと同じ話題で話せたときは、とても楽しくなります。

Q、昔話（民話）とは渡邊さんにとって何ですか？また、好きな民話は？

A、渡邊

語りをライフワークとしてきました。その土地に生きてきた人たちの姿が見える伝説民話に興味があります。人と人、家族、村と村、などなど奥が深く、どこまでも追求したくなります。

好きな民話・・・ですか？自分で語っているものはみんな好きです。

Q、語りを通して、大切にしている事、物を教えてください。

A、渡邊

人と人との出会い。お聞きした話には生活の匂いがし、語り手の思いが込められ私の財産です。いただいた財産を語りついで行きたいと思います。

Q、最後に、今思っていること。何でも・・・・。

A、渡邊

伝承文化である昔話を一つでも多く語り継ぎたいと思っています。その対象は子ども達だと思うので、子ども達と一緒に語ることで継承できるのではと思っています。

「渡邊記美子さん」

漆山地区　地名伝説集

「上杉の封じ道」

むかーし、あったけずもなぁ。ここ、池黒のお羽黒山は、山伏の修験場だったなだど。ここで、修業した山伏や、六部達がお葉山の峯を渡り、山越えして、出羽三山へ旅立ったなだど。

山麓には道があり、四ツ谷を通って漆山、羽付、梨郷へと行く旧本街道があったなだど。

峰岸街道て言う道だったど。

ある年のこと、新しくご領主様になられた、上杉景勝様が、領地の見回りに大勢の家来を従えて、馬さ乗ってござったど。

それを見た、羽黒の山伏達が新しい殿様を試してみようと、殿様が亀井橋あたりまでおいでになった頃、殿様のご乗馬に不動金縛りの術をかけたんだそうだ。殿様は家来を後ろに従え、乗馬姿で橋の上まで来られた。

突然、殿様の馬は前足を折り全然動かなくなってすまったなだど。家来衆はあわてて、いくら馬をなだめても、「びく」とも動かねなだど。そこで殿様大声で、

「やぁー、やぁーよく聞け山伏ども、この山は、その方らの羽黒か、上杉の羽黒か腹を据えて返答せい」と呼ばわったば馬は間もなく元の姿に戻り無事通られたなだど。

その後この道は、「武士はこの道を通ってはならぬ、上杉の封じ道とする」と言うことで、ここの峰岸街道はすっかり寂れてすまったど。

とーびんと

※この道はすっかり新しくなり、昔の姿は思い出せなくなりました。お羽黒山は遠い昔、蝦夷の城跡と伝えられ、今も空堀の跡が確認できます。

隣接する山は、上の平と呼ばれ「大野平、笹子平など、平のつく地名は、昔の縄文人の住居跡とも私考されます。」また埋蔵宝物の伝説等もこの地区にあり、古里の遠い昔を忍ばせます。

（亀井橋がどこにあったのかは、今もわかりません）

地名伝説担当編集
おりはたの里づくり推進会議

ありがとうございました！

七月四日（金）、宮中生十一名と漆小生四名、計十五名の生徒の皆さんが、夕鶴の里のボランティア清掃に来ていただきました。

中学生と小学生が協力して作業をしていただき、おかげさまで、館内の窓は“ピカピカ”きれいになりました。

ありがとうございました。